人と動物の共生センター

事後評価報告書

中国5県におけるペットと飼い主の避難を実現する、動物避難所整備事業

実行団体 | 特定非営利活動法人人と動物の共生センター

提出日 | 2026年2月28日

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金を活用した事業です

報告書全文はこちら👉

報告書要約

① 背景・課題

- ペット防災が「動物の問題」とされ、人の施策に不十分。
- 現場判断のため、混乱や拒否、**飼い主の避難諦め**が発生。

② 事業内容

- ペット事業者を地域防災の新たな担い手として位置づけ、協力事業者と連携しながら、地域における避難受け入れ体制の構築。
- 研修・訓練を通じ「人の避難支援」としての視点を共有。

③ 主な成果

- 中国5県で**51の事業者・団体**が登録され、目標を大きく達成。
- 指定避難所に依存しない多様な避難先の選択肢を創出。

④ 制度面の課題

- 公的避難所での受入体制整備や協定締結は十分に達成されず。
- 人的制約や合意形成の壁により、具体的整備に至らない現状。

⑤ 発災対応の実証

- 2026年1月地震で平時の網を活用し、安否確認・共有を円滑化。
- 平時の関係構築が**初動対応の質を高める**ことを実証。

⑥ 今後の展望

- 全国動物避難所協会との連携で、地域間連携の仕組みを全国へ展開。
- 人の防災と一体化したペット防災体制による持続的基盤整備。
- 動物避難所マッピングや情報連携基盤の整備により、迅速な支援体制を構築。

目次

1 **報告書要約** p.2
事業の背景・課題・成果・今後の展望を簡潔に総括

2 **基本情報** p.4
実行団体・事業名・実施期間・対象地域などの基本データ

3 **事業概要** p.5-7
解決を目指す社会課題、受益者、ToC（変化の理論）の変遷

4 **事後評価実施概要** p.7
評価の目的、アンケート調査の方法と回収率

5 **事業の実績** p.8-10
人材・資機材・経費の投入実績および主な活動の記録

6 **アウトカムの分析** p.11-12
達成できた成果（意識変容など）と残された課題（制度化など）

7 **成功要因・課題** p.13-14
民間主導アプローチの有効性と行政連携の課題分析

8 **結論** p.16
事業全体を通じた成果の総括と今後の方向性

9 **本事業で取り扱った活動を発展させるための提言** p.15
持続可能な体制構築に向けた具体的なアクションプラン

10 **事業からの学び・知見・教訓** p.33
他地域展開に資するノウハウと現場からの教訓

基本情報

実行団体名	特定非営利活動法人人と動物の共生センター
実行団体事業名	**中国5県におけるペットと飼い主の避難を実現する、動物避難所整備事業**
資金分配団体	**特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター** （資金分配団体事業名：中国5県における発災時の相互支援体制構築に向けた地域の支援団体育成・強化事業）
実施期間	2023年10月1日 〜 2026年2月28日
事業対象地域	**中国5県の全市町村** 鳥取 島根 岡山 広島 山口

社会課題の背景

避難所での受け入れ拒否と避難の諦め

ペットを連れた避難者が避難所への入室を断られる事態が災害のたびに発生しています。「ペットがいるから」と避難をためらい、人もペットも命の危険にさらされるケースが後を絶ちません。

ペット同伴避難を受け入れた避難所においても、以下のような課題により周囲とのトラブルが発生しています。

- 臭いや排泄の問題
- 吠え等のしつけの問題
- 動物アレルギーや動物嫌いの方への配慮不足

これらの問題は、避難所での受け入れ可否だけではなく、飼い主が平時から自助や分散避難を含む複数の安全な避難の選択肢を確保できているかという点に課題があることも示しています。

ペットが避難できない状況は
3割の人が安全な避難ができない
状況と言えます

※全国のペット飼育世帯率より推計

課題の問題構造

根本的な認識のズレ

本来、ペット同行避難は「飼い主の命を守るための避難」ですが、「動物愛護の問題」と誤解されがちで、「ペットの前に人だろ！」という意見により合意形成が進まない現状があります。

行政・防災組織の課題

避難所運営を担う管理者や地域組織にペットのことがわかる人はごくわずかで、具体的な受入ルールや環境整備が進まない。

ペット関連事業者の課題

ペットに関する専門性や日常的な支援経験を持つ事業者が地域に多数存在している一方で、地域防災との接点を持つ機会が限られており、平時からの連携が生まれにくい状況がある。

情報発信の偏り

行政発信の情報は「指定避難所」に偏りがち。「分散避難（親戚宅・ホテル等）」の選択肢が浸透していない。

中国5県の地域事情

高齢化が進む中山間地域では、避難所自体が危険区域にある場合も多く、新たな避難先の選択肢も必要。

構造的な「連携の断絶」

行政・地域防災組織

- 避難所運営の権限を持つ
- ペットの専門知識がない
- トラブルへの懸念

平時の接点が乏しい

ペット関連事業者

- 動物取扱いのプロ
- 防災の知識・ノウハウ不足
- 地域活動への参加が少ない

↓

結果：現場での混乱・受入拒否

飼い主が避難を諦め、命の危険に晒される

◎事業の目的と内容

本事業は、ペットを飼育している避難者が安心して避難できるようにすることを目的に、**民間動物避難所とペット防災啓発窓口を募集・育成**し、ペット防災以外の分野の多様な**防災団体との接続**を行います。

担い手人材の発掘・研修

- 中国5県における、民間動物避難所設置事業者の募集・相談会の開催
- 中国5県における、ペット防災啓発窓口の募集・相談会の開催
- 登録者に対する、一般防災・減災およびペット防災に関する知識習得のための研修の実施

地域防災組織・行政をつなぐ活動

- 本休眠預金事業採択事業者と、登録事業者の接続
- 中国5県各県における、ペット防災先駆者を話題提供者としたワークショップの開催
- 多様な防災団体とのネットワーキング促進

避難所開設訓練および飼い主啓発

- 発災を想定した動物避難所開設訓練、および関係機関による県域を超えた支援訓練の実施
- 地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災・減災啓発活動（ペット防災カレンダー配布等）
- 自治体向けアンケート調査および評価会議の実施

主な活動

本事業では、ペット同行避難を支える担い手として**民間動物避難所51か所および啓発窓口を募集**し、指定避難所に依存しない多様な選択肢を創出しました。また、行政・福祉・防災関係者との連携強化により、平時からの顔の見える関係構築が、発災時の迅速な初動連携に大きく寄与しています。

担い手育成と連携強化
民間避難所・啓発窓口

地域のペット防災を担う多様なプレイヤーを発掘・育成。

- 民間動物避難所51か所、ペット防災啓発窓口62か所を登録。
- 説明会・相談会を実施し、事業者の不安を解消。
- 平時からの相談体制を確立。

#51か所達成 #人材育成

自治体職員向け研修
危機管理×動物愛護

行政内部の連携を促進し、ペット防災を「被災者支援」と再定義。

- 危機管理・動物愛護部門の合同研修で相互理解を促進。
- 「同行避難」と「同伴避難」の違いや運営ルール指針を共有。
- 庁内連携体制の構築。

#行政連携 #意識改革

多職種連携と環境整備
訓練／避難の選択肢の検証

福祉専門職と連携し、多様な避難環境の選択肢を具体化。

- 自閉症協会・DWATとの合同訓練で「車中泊避難」「同室同伴避難」の避難の選択肢を検証。
- ゾーニングや車中泊ルールを、学び、柔軟な受入体制を検討する機会に。

#福祉連携 #同室避難

地震発生時の対応
2026.01 島根県東部を震源地とする地震

平時のネットワークが機能し、発災直後からの迅速連携を実現。

- 登録避難所等へ安否確認や避難所開可否確認を行い、鳥取県災害福祉支援センターへ即時共有。
- 「顔の見える関係」が奏功。

#災害対応 #情報共有

動物避難所の登録状況

当初目標を大きく達成

民間動物避難所 登録数

51 事業者・団体

中国5県全体

広域的な受け入れ体制の構築

中国5県全体で51の事業者・団体が登録されました。当初の目標を大きく上回る成果となり、広域的な相互支援体制の基盤が整いました。

多様な避難先の選択肢を創出

指定避難所のみに依存しない、現実的かつ多様な避難先の選択肢が各地域に生まれました。これは本事業における重要な成果です。

新たな防災の担い手

ペット関連事業者が地域防災の新たな担い手として位置づけられ、平時からのネットワーク構築が進みました。

自治体向けアンケート結果

全自治体調査を実施

全体回収率

68%

回答数：73 / 107自治体

調査概要

実施時期：2024年9月～12月
対象：中国5県の全107自治体（市町村）
目的：現状の把握および今後の意向確認

調査の狙い

指定避難所でのペット受入体制構築やルール作りの進捗を確認し、今後の事業改善および他地域展開への知見整理を目的として実施。

県別回収状況

山口県	94% (18/19)	鳥取県	89% (17/19)
島根県	84% (16/19)	岡山県	51% (14/27)
広島県	34% (8/23)		

各自治体の
アンケート集計はこちら

アウトカム分析① 達成できた成果

ペット防災を
「人の防災」と一体で考える意識が
醸成されつつある

研修や訓練を通じて、防災関係者や支援団体の間で、
認識の質的な転換が確認されました。

これまでの認識		新たな認識
動物のための配慮	→	人の避難行動を支える支援

アウトカム分析② 残された課題

制度面での成果は未達成

自治体が運営する指定避難所におけるペット受入体制の整備や、災害協定の締結については、十分に達成されたとは言えない結果となりました。

アンケート調査では多くの自治体が前向きな意向を示しましたが、実際の整備に至らない要因として、以下の課題が明らかになりました。

人的体制の制約

担当部署の人員不足や専門知識を持つ職員の不在

合意形成への懸念

避難所運営における住民間のトラブルや合意形成の難しさ

避難所運営全体の課題

ペット防災に限らず、避難所運営全体に関わる構造的な課題

自治体の前向きな意向

↓

実行を阻む壁　体制不備・合意形成の困難

↓

具体的な整備に至らず

制度化には
「継続的な対話」
を継続

成功要因（概要）

※詳細はスライド29を参照

民間主導によるペット防災の基盤整備と、広域的な連携体制の芽を確実に育てた

本事業は、短期的な制度整備の成果にとどまらず、
平時からの関係構築を通じて、災害時の初動対応を支える基盤づくりに寄与しました。

平時の取り組み	実証 → 2026年1月地震	有事の成果
研修・訓練・関係構築の積み重ね		初動対応の質向上と円滑な連携

実際の発災対応事例（2026年1月島根県東部を震源地とする地震）

平時の関係構築が初動対応の質を決定づける

2026年1月に発生した地震対応では、平時から構築してきたネットワークを活用し、迅速かつ円滑な連携を実現しました。

実際の発災対応において、以下の具体的な成果が確認されました。平時の研修や訓練、関係づくりの積み重ねが、緊急時の混乱を防ぎ、被災者支援の質を高めることを実証しています。

登録事業者への迅速な安否確認

平時の連絡網を活用し、登録事業者の安否と被災状況を把握。

受け入れ可否の情報整理

各事業者の受け入れ可能状況を集約し、避難ニーズとのマッチング体制を早期に確立。

関係機関との円滑な情報共有

災害中間支援組織を通じて、自治体や他の支援団体とシームレスに情報を共有。

平時から有事への連携フロー

今後の課題と提言（概要）

※詳細はスライド31-32を参照

本事業で得られた知見を基に、ペット同行避難を「社会全体の防災課題」として定着させ、持続可能な支援体制を構築するための提言を行います。

制度化への継続的対話支援

- 自治体の人的体制制約や合意形成の壁を乗り越えるための情報教諭や対話の継続
- 指定避難所における現実的な受入体制整備とルール作りの推進
- 行政・防災組織・ペット専門家の三者間での対話機会の創出

広域連携モデルの全国展開

- 全国動物避難所協会との連携を軸とした地域間連携の仕組みの拡大
- 中国5県で実証された相互支援ネットワークのノウハウを他地域へ展開
- 災害中間支援組織を通じた広域的な情報共有体制の強化

人の防災との完全な統合

- 「動物の問題」ではなく「人の避難行動を支える支援」としての位置づけの確立
- 避難所運営全体に関わる課題として、一般防災施策への組み込みを推進
- 飼い主の自助意識向上と分散避難の啓発強化

中間まとめ

民間主導によるペット防災の基盤整備と、広域的な連携体制の芽を確実に育てた

短期的な制度整備の成果にとどまらず、平時からの関係構築を通じて、
災害時の初動対応を支える基盤づくりに寄与した点に大きな意義があります。

基盤整備

指定避難所のみに依存しない、多様な避難先の選択肢を創出しました。

広域連携

中国5県全体で51の事業者・団体が登録し、相互支援のネットワークを構築しました。

実効性

平時の研修や訓練が、実際の災害対応（2026年1月地震）での円滑な初動につながりました。

アウトプット実績データ表（目標 vs 実績）

指標	目標値	実績値	達成状況
チラシ配布数	1,747	1,747	100%
カレンダー配布冊数	10,000	12,900	↑ 129%
自治体アンケート配布数	107	107	100%
自治体訪問数	25	41	↑ 164%
SNSコミュニティ参加人数	40	6	15%

カレンダー配布達成率

129%

自治体訪問達成率

164%

アンケート回収率

68%

短期アウトカム実績表（目標 vs 実績）

指標	目標値	実績値	達成状況
動物避難所設置事業者・団体数	36	51	↑ 142%
ペット防災啓発窓口 登録数	90	62	! 69%
適切な避難（分散避難等）を自治体施策に反映	15	0	× 未達成
SNSコミュニティ参加人数	40	6	⚠ 15%
自治体との災害協定数	15	0	× 未達成

動物避難所 達成率

142%

啓発窓口 登録数

62件

制度化・協定締結

課題（未達成）

ToC図 1/5：ToC_1（初期／2023）

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム
①ペットと避難する避難者が発災時に、避難先の選択肢を複数持っており、その場に留まるのではなく、命を守る適切な避難行動ができている。
②各地域の地域防災の中でペット防災の担い手がおり、ペットの避難に関する事項が検討され、受け入れ態勢が整っている。
③ペット防災の支援者間で、平時から中国5県の県域をまたいだ交流が生まれ、発災時に支援しあえる体制が整っている。

【短期アウトカム①】
動物避難所が、ペット連れの避難者の避難先の一つとして認識され、中国5県の各県に動物避難所が設置され、避難者にとって現実的に利用できる、ペット同行避難先の選択肢になっている。

【短期アウトカム②】
ペット防災支援者が、地域防災のコミュニティに参画し、地域防災の中で、発災時のペットの避難に関するルール作りなどの取り組みが行われている。

【短期アウトカム③】
中国5県の各県を越えてペット防災に係わり、支援者間の顔の見えるコミュニティが生まれ、協働での訓練や他県で発災した際の支援シミュレーションが行われている。

【アウトカム指標①】飼い主
・動物避難所設置事業者数
・飼い主向けアンケートにより親類・知人・ご近所の方と、発災時の避難先について相談を行っている割合を測定

【アウトカム指標②】防災関係者
・ペット防災啓発窓口登録事業者・団体数／動物避難所設置事業者数
・防災関係者アンケートにより、ペット防災について相談できる人を具体的に知っている人の割合／ペットの避難に関するルール作りが行われている割合を測定
・防災関係者アンケートにより動物避難所による受け入れ活動を認知している人の割合を測定

【アウトカム指標③】防災関係者
・SNSコミュニティ参加者へのヒアリングもしくはアンケートにより、発災時に連携が取り合える相手がいる割合を測定

【アウトプット①】避難所（実務）
【1.増やす】
・動物避難所設置事業者数
鳥取、島根　各6件
岡山、広島、山口　各8件
【2.周知する】
・啓発カレンダー配布冊数
中国5県全体で5000冊／年
【3.調べる】
・飼い主意識調査200件

【アウトプット②】窓口（戦略）
【1.民間窓口能力強化】
・ペット防災啓発窓口登録事業者数
鳥取、島根　各15件
岡山、広島、山口　各20件
【2.窓口間連携強化】
・勉強会のべ参加人数360人
【3.調べる】
・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット③】広域連携
【1.繋がる】
・中国5県のペット防災関係者をつなぐSNSコミュニティへの参加人数
鳥取、島根　各25人
岡山、広島、山口　各30人
【2.訓練する】
・各県の関係者協働での動物避難所開設訓練及び支援訓練の実施回数及び参加事業者数　各県15事業者

【活動①】避難所（実務）
【1.増やす】
・動物避難所募集説明会の開催
・動物避難所向け勉強会、相談会の開催
【2.周知する】
・地域の防災団体と連携した飼い主向けペット防災啓発活動
【3.調べる】
・飼い主向け意識調査

【活動②】窓口（戦略）
【1.窓口能力強化】
・啓発窓口募集説明会の開催
・啓発窓口向け勉強会、相談会の開催
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動
【2.窓口間連携強化】
・地域防災関係者とペット防災関係者をつなぐワークショップの開催
・防災士の資格取得
【3.調べる】
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査

【活動③】
【1.繋がる】
・本休眠預金事業Aコース採択者や地域防災関係機関への登録者の接続
【2.訓練する】
・防災・減災およびペット防災研修
・発災を想定した動物避難所開設訓練、及び、関係機関による県域を越えた支援訓練
・社会福祉協議会等と連携した、孤立困窮者向け避難支援

【本事業で解決する課題①】
ペットを連れた飼い主の避難の選択肢として動物避難所が存在せず、適切な避難行動について飼い主に周知されていないことで、避難をあきらめてしまう状態になっている

【本事業で解決する課題②】
地域防災の担い手の中に、ペットに関して知識を持っている人が少ないために、地域でのペット防災の取り組みが進まない。

【本事業で解決する課題③】
ペット飼育という専門性を持った防災関係者等が協働するネットワークが存在せず、災害発生時に円滑な支援を行うことができる状態にない。

【根本的問題】
ペットを連れた避難者が、指定避難所への入室を断られる事態が発生しており、その結果「ペットがいるから」と避難をためらい、人もペットも命の危険に曝される事案も報告されている。ペットの避難に関するルール作りが求められているが、避難所運営は、地域の防災組織が担っており、同組織にペットの専門家がいなければ具体的なルール作りは進みにくい。一方でペット防災の担い手となるペット関連事業者と地域の防災組織の連携関係が築かれていないことが、地域防災の中でのペット対応が進みにくい理由となっている。
また、ペット同行避難に関する情報は、基本的に行政からの発信に偏っており、ペット同行避難＝指定避難所への避難というイメージが先行している。避難行動全般に言えることだが、指定避難所への避難よりも、親類や知人の家、ホテルなどへの分散避難を優先すべきである。飼い主の場合、非飼い主よりも分散避難を選択すべきだが、現状その意識を育めていない。
これらの課題は、ペット防災の担い手が各地域で可視化されていないこと、ペット防災の担い手と地域防災の担い手が連携できていないことが根本的課題であると考えられる。

初期設計のロジックモデル（活動・アウトプット・アウトカムの基本整理）

ToC図 2/5：ToC_2（2024.06）

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム
①ペットと避難する避難者が発災時に、避難先の選択肢を複数持っており、その場に留まるのではなく、命を守る適切な避難行動ができている。
②各地域の地域防災の中でペット防災の担い手がおり、ペットの避難に関する事項が検討され、受け入れ態勢が整っている。
③ペット防災の支援者間で、平時から中国5県の県域をまたいだ交流が生まれ、発災時に支援しあえる体制が整っている。

【短期アウトカム①】
動物避難所が、ペット連れの避難者の避難先の一つとして認識され、中国5県の各県に動物避難所が設置され、避難者にとって現実的に利用できる、ペット同行避難先の選択肢になっている。

【短期アウトカム②】
ペット防災支援者が、地域防災のコミュニティに参画し、地域防災の中で、発災時のペットの避難に関するルール作りなどの取り組みが行われている。

【短期アウトカム③】
中国5県の各県を越えてペット防災に係わり、支援者間の顔の見えるコミュニティが生まれ、協働での訓練や他県で発災した際の支援シミュレーションが行われている。

【アウトカム指標①】飼い主
・動物避難所設置事業者数
鳥取、島根　各6件
岡山、広島、山口　各8件
・飼い主向けアンケートにより親類・知人・ご近所の方と、発災時の避難先について相談を行っている割合を測定

【アウトカム指標②】防災関係者
・ペット防災啓発窓口登録事業者・団体数
鳥取、島根　各15件
岡山、広島、山口　各20件
・防災関係者アンケートにより、ペット防災について相談できる人を具体的に知っている人の割合／ペットの避難に関するルール作りが行われている割合を測定
・防災関係者アンケートにより動物避難所による受け入れ活動を認知している人の割合を測定

【アウトカム指標③】防災関係者
・SNSコミュニティ参加者へのヒアリングもしくはアンケートにより、発災時に連携が取り合える相手がいる割合を測定

【アウトプット①】避難所（実務）
【1.増やす】
・動物避難所設置事業者募集チラシ配布数
鳥取131件、島根143件、岡山463件、広島685件、山口325件
【2.周知する】
・啓発カレンダー配布冊数
中国5県全体で5000冊／年
【3.調べる】
・飼い主意識調査200件

【アウトプット②】窓口（戦略）
【1.民間窓口強化】
・ペット防災啓発窓口登録事業者募集チラシ配布数
鳥取131件、島根143件、岡山463件、広島685件、山口325件
【2.窓口間連携強化】
・勉強会のべ参加人数360人
【3.調べる】
・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット③】広域連携
【1.繋がる】
・中国5県のペット防災関係者をつなぐSNSコミュニティへの参加人数
鳥取、島根　各25人
岡山、広島、山口　各30人
【2.訓練する】
・各県の関係者協働での動物避難所開設訓練及び支援訓練の実施回数及び参加事業者数　各県15事業者

【活動①】避難所（実務）
【1.増やす】
・動物避難所募集説明会の開催
・動物避難所向け勉強会、相談会の開催
【2.周知する】
・地域の防災団体と連携した飼い主向けペット防災啓発活動
【3.調べる】
・飼い主向け意識調査

【活動②】窓口（戦略）
【1.窓口能力強化】
・啓発窓口募集説明会の開催
・啓発窓口向け勉強会、相談会の開催
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動
【2.窓口間連携強化】
・地域防災関係者とペット防災関係者をつなぐワークショップの開催
・防災士の資格取得
【3.調べる】
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査

【活動③】
【1.繋がる】
・本休眠預金事業Aコース採択者や地域防災関係機関への登録者の接続
【2.訓練する】
・防災・減災およびペット防災研修
・発災を想定した動物避難所開設訓練、及び、関係機関による県域を越えた支援訓練
・社会福祉協議会等と連携した、孤立困窮者向け避難支援

【本事業で解決する課題①】
ペットを連れた飼い主の避難の選択肢として動物避難所が存在せず、適切な避難行動について飼い主に周知されていないことで、避難をあきらめてしまう状態になっている

【本事業で解決する課題②】
地域防災の担い手の中に、ペットに関して知識を持っている人が少ないために、地域でのペット防災の取り組みが進まない。

【本事業で解決する課題③】
ペット飼育という専門性を持った防災関係者等が協働するネットワークが存在せず、災害発生時に円滑な支援を行うことができる状態にない。

【根本的問題】
ペットを連れた避難者が、指定避難所への入室を断られる事態が発生しており、その結果「ペットがいるから」と避難をためらい、人もペットも命の危険に曝される事案も報告されている。ペットの避難に関するルール作りが求められているが、避難所運営は、地域の防災組織が担っており、同組織にペットの専門家がいなければ具体的なルール作りは進みにくい。一方でペット防災の担い手となるペット関連事業者と地域の防災組織の連携関係が築かれていないことが、地域防災の中でのペット対応が進みにくい理由となっている。
また、ペット同行避難に関する情報は、基本的に行政からの発信に偏っており、ペット同行避難＝指定避難所への避難というイメージが先行している。避難行動全般に言えることだが、指定避難所への避難よりも、親類や知人の家、ホテルなどへの分散避難を優先すべきである。飼い主の場合、非飼い主よりも分散避難を選択すべきだが、現状その意識を育めていない。
これらの課題は、ペット防災の担い手が各地域で可視化されていないこと、ペット防災の担い手と地域防災の担い手が連携できていないことが根本的課題であると考えられる。

活動②に「防災士取得」を追加し、担い手育成の質を強化

ToC図 3/5：ToC_3（2024.07 大改訂）

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム
①ペットと避難する避難者が発災時に、避難先の選択肢を複数持っており、その場に留まるのではなく、命を守る適切な避難行動ができている。
②各地域の地域防災の中でペット防災の担い手がおり、ペットの避難に関する事項が検討され、受け入れ態勢が整っている。
③ペット防災の支援者間で、平時から中国５県の県域をまたいだ交流が生まれ、発災時に支援しあえる体制が整っている。

【短期アウトカム①】
動物避難所が、ペット連れの避難者の避難先の一つとして認識され、中国５県の各県に動物避難所が設置され、避難者にとって現実的に利用できる、ペット同行避難先の選択肢になっている。

【短期アウトカム②】
ペット防災支援者が、地域防災のコミュニティに参画し、地域防災の中で、発災時のペットの避難に関するルール作りなどの取り組みが行われている。

【短期アウトカム③】
中国5県の各県を越えてペット防災に係わり、支援者間の顔の見えるコミュニティが生まれ、協働での訓練や他県で発災した際の支援シミュレーションが行われている。

【アウトカム指標①】飼い主
・動物避難所設置事業者数
・飼い主向けアンケートにより親類・知人・ご近所の方と、発災時の避難先について相談を行っている割合を測定

【アウトカム指標②】防災関係者
・ペット防災啓発窓口登録事業者・団体数／動物避難所設置事業者数
・防災関係者アンケートにより、ペット防災について相談できる人を具体的に知っている人の割合／ペットの避難に関するルール作りが行われている割合を測定
・防災関係者アンケートにより動物避難所による受け入れ活動を認知している人の割合を測定

【アウトカム指標③】防災関係者
・SNSコミュニティ参加者へのヒアリングもしくはアンケートにより、発災時に連携が取り合える相手がいる割合を測定

【アウトプット①】避難所（実務）
【1.増やす】
・動物避難所設置事業者数
鳥取、島根　各6件
岡山、広島、山口　各8件
【2.周知する】
・啓発カレンダー配布冊数
中国5県全体で5000冊／年
【3.調べる】
・飼い主意識調査200件

【アウトプット②】窓口（戦略）
【1.民間窓口能力強化】
・ペット防災啓発窓口登録事業者数
鳥取、島根　各15件
岡山、広島、山口　各20件
【2.窓口間連携強化】
・勉強会のべ参加人数360人
【3.調べる】
・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット③】広域連携
【1.繋がる】
・中国5県のペット防災関係者をつなぐSNSコミュニティへの参加人数
鳥取、島根　各25人
岡山、広島、山口　各30人
【2.訓練する】
・各県の関係者協働での動物避難所開設訓練及び支援訓練の実施回数及び参加事業者数　各県15事業者

【活動①】避難所（実務）
【1.増やす】
・動物避難所募集説明会の開催
・動物避難所向け勉強会、相談会の開催
【2.周知する】
・地域の防災団体と連携した飼い主向けペット防災啓発活動
【3.調べる】
・飼い主向け意識調査

【活動②】窓口（戦略）
【1.窓口能力強化】
・啓発窓口募集説明会の開催
・啓発窓口向け勉強会、相談会の開催
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動
【2.窓口間連携強化】
・地域防災関係者とペット防災関係者をつなぐワークショップの開催
・防災士の資格取得
【3.調べる】
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査

【活動③】
【1.繋がる】
・本休眠預金事業Aコース採択者や地域防災関係機関への登録者の接続
【2.訓練する】
・防災・減災およびペット防災研修
・発災を想定した動物避難所開設訓練、及び、関係機関による県域を越えた支援訓練
・社会福祉協議会等と連携した、孤立困窮者向け避難支援

本事業で解決する課題①】
ペットを連れた飼い主の避難の選択肢として動物避難所が存在せず、適切な避難行動について飼い主に周知されていないことで、避難をあきらめてしまう状態になっている

【本事業で解決する課題②】
地域防災の担い手の中に、ペットに関して知識を持っている人が少ないために、地域でのペット防災の取り組みが進まない。

【本事業で解決する課題③】
ペット飼育という専門性を持った防災関係者等が協働するネットワークが存在せず、災害発生時に円滑な支援を行うことができる状態にない。

【根本的問題】
ペットを連れた避難者が、指定避難所への入室を断られる事態が発生しており、その結果「ペットがいるから」と避難をためらい、人もペットも命の危険に曝される事案も報告されている。ペットの避難に関するルール作りが求められているが、避難所運営は、地域の防災組織が担っており、同組織にペットの専門家がいなければ具体的なルール作りは進みにくい。一方でペット防災の担い手となるペット関連事業者と地域の防災組織の連携関係が築かれていないことが、地域防災の中でのペット対応が進みにくい理由となっている。
また、ペット同行避難に関する情報は、基本的に行政からの発信に偏っており、ペット同行避難＝指定避難所への避難というイメージが先行している。避難行動全般に言えることだが、指定避難所への避難よりも、親類や知人の家、ホテルなどへの分散避難を優先すべきである。飼い主の場合、非飼い主よりも分散避難を選択すべきだが、現状その意識を育めていない。
これらの課題は、ペット防災の担い手が各地域で可視化されていないこと、ペット防災の担い手と地域防災の担い手が連携できていないことが根本的課題であると考えられる。

活動を分かりやすく再整理／アウトプット区分を再整理

ToC図 4/5：ToC_4（2024.11）

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム

①ペットと避難する避難者が発災時に、避難先の選択肢を複数持っており、その場に留まるのではなく、命を守る適切な避難行動ができている。
②各地域の地域防災の中でペット防災の担い手がおり、ペットの避難に関する事項が検討され、受け入れ態勢が整っている。
③ペット防災の支援者間で、平時から中国5県の県域をまたいだ交流が生まれ、発災時に支援しあえる体制が整っている。

【短期アウトカム①】

動物避難所が、ペット連れの避難者の避難先の一つとして認識され、中国5県の各県に動物避難所が設置され、避難者にとって現実的に利用できる、ペット同行避難先の選択肢になっている。

【短期アウトカム②】

ペット防災支援者が、地域防災のコミュニティに参画し、地域防災の中で、発災時のペットの避難に関するルール作りなどの取り組みが行われている。

【短期アウトカム③】

中国5県の各県を越えてペット防災に係わり、支援者間の融の見えるコミュニティが生まれ、協働での訓練や他県で発災した際の支援シミュレーションが行われている。

【アウトカム指標①】

・動物避難所設置事業者数
・飼い主向けアンケートにより親類・知人・ご近所の方と、発災時の避難先について相談を行っている割合を測定
・防災関係者アンケートにより動物避難所による受け入れ活動を認知している人の割合を測定

【アウトカム指標②】

・ペット防災啓発窓口登録事業者・団体数／動物避難所設置事業者数
・防災関係者アンケートにより、ペット防災について相談できる人を具体的に知っている人の割合／ペットの避難に関するルール作りが行われている割合を測定

【アウトカム指標③】

・SNSコミュニティ参加者へのヒアリングもしくはアンケートにより、発災時に連携が取り合える相手がいる割合を測定

【アウトプット①】

・動物避難所設置事業者数
　鳥取、島根　各6件
　岡山、広島、山口　各8件

・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
　中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット②】

・ペット防災啓発窓口登録事業者数
　鳥取、島根　各15件
　岡山、広島、山口　各20件

・勉強会のべ参加人数360人
・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
　中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット③】

・中国5県のペット防災関係者をつなぐSNSコミュニティへの参加人数
　鳥取、島根　各25人
　岡山、広島、山口　各30人

・各県の関係者協働での動物避難所開設訓練及び支援訓練の実施回数及び参加事業者数　各県15事業者

【活動①】

・動物避難所募集説明会の開催
・動物避難所向け勉強会、相談会の開催
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動

【活動②】

・啓発窓口募集説明会の開催
・啓発窓口向け勉強会、相談会の開催
・地域防災関係者とペット防災関係者をつなぐワークショップの開催
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動

【活動③】

・本休眠預金事業Aコース採択者や地域防災関係機関への登録者の接続
・防災・減災およびペット防災研修
・発災を想定した動物避難所開設訓練、及び、関係機関による県域を越えた支援訓練

本事業で解決する課題①】

ペットを連れた飼い主の避難の選択肢として動物避難所が存在せず、適切な避難行動について飼い主に周知されていないことで、避難をあきらめてしまう状態になっている

【本事業で解決する課題②】

地域防災の担い手の中に、ペットに関して知識を持っている人が少ないために、地域でのペット防災の取り組みが進まない。

【本事業で解決する課題③】

ペット飼育という専門性を持った防災関係者等が協働するネットワークが存在せず、災害発生時に円滑な支援を行うことができる状態にない。

【根本的問題】

ペットを連れた避難者が、指定避難所への入室を断られる事態が発生しており、その結果「ペットがいるから」と避難をためらい、人もペットも命の危険に曝される事案も報告されている。ペットの避難に関するルール作りが求められているが、避難所運営は、地域の防災組織が担っており、同組織にペットの専門家がいなければ具体的なルール作りは進みにくい。一方でペット防災の担い手となるペット関連事業者と地域の防災組織の連携関係が築かれていないことが、地域防災の中でのペット対応が進みにくい理由となっている。
また、ペット同行避難に関する情報は、基本的に行政からの発信に偏っており、ペット同行避難＝指定避難所への避難というイメージが先行している。避難行動全般に言えることだが、指定避難所への避難よりも、親類や知人の家、ホテルなどへの分散避難を優先すべきである。飼い主の場合、非飼い主よりも分散避難を選択すべきだが、現状その意識を育めていない。
これらの課題は、ペット防災の担い手が各地域で可視化されていないこと、ペット防災の担い手と地域防災の担い手が連携できていないことが根本的課題であると考えられる。

アウトプット・アウトカムの関係性を再整理

ToC図 5/5：ToC_5（2025.01 最終）

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム

①ペットと避難する避難者が発災時に、避難先の選択肢を複数持っており、その場に留まるのではなく、命を守る適切な避難行動ができている。
②各地域の地域防災の中でペット防災の担い手がおり、ペットの避難に関する事項が検討され、受け入れ態勢が整っている。
③ペット防災の支援者間で、平時から中国5県の県域をまたいだ交流が生まれ、発災時に支援しあえる体制が整っている。

【短期アウトカム①】

動物避難所が、ペット連れの避難者の避難先の一つとして認識され、中国5県の各県に動物避難所が設置され、避難者にとって現実的に利用できる、ペット同行避難先の選択肢になっている。

【短期アウトカム②】

ペット防災支援者が、地域防災のコミュニティに参画し、地域防災の中で、発災時のペットの避難に関するルール作りなどの取り組みが行われている。

【短期アウトカム③】

中国5県の各県を越えてペット防災に係わり、支援者間の顔の見えるコミュニティが生まれ、協働での訓練や他県で発災した際の支援シミュレーションが行われている。

【アウトカム指標①】

・動物避難所設置事業者数
・飼い主向けアンケートにより親類・知人・ご近所の方と、発災時の避難先について相談を行っている割合を測定
・防災関係者アンケートにより動物避難所による受け入れ活動を認知している人の割合を測定

【アウトカム指標②】

・ペット防災啓発窓口登録事業者・団体数／動物避難所設置事業者数
・防災関係者アンケートにより、ペット防災について相談できる人を具体的に知っている人の割合／ペットの避難に関するルール作りが行われている割合を測定

【アウトカム指標③】

・SNSコミュニティ参加者へのヒアリングもしくはアンケートにより、発災時に連携が取り合える相手がいる割合を測定

【アウトプット①】

・動物避難所設置事業者数
　鳥取、島根　各6件
　岡山、広島、山口　各8件

・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
　中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット②】

・ペット防災啓発窓口登録事業者数
　鳥取、島根　各15件
　岡山、広島、山口　各20件

・勉強会のべ参加人数360人
・防災関係者アンケート100件
・飼い主意識調査200件
・啓発カレンダー配布冊数
　中国5県全体で5000冊／年

【アウトプット③】

・中国5県のペット防災関係者をつなぐSNSコミュニティへの参加人数
　鳥取、島根　各25人
　岡山、広島、山口　各30人

・各県の関係者協働での動物避難所開設訓練及び支援訓練の実施回数及び参加事業者数　各県15事業者

【活動①】

・動物避難所募集説明会の開催
・動物避難所向け勉強会、相談会の開催
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動

【活動②】

・啓発窓口募集説明会の開催
・啓発窓口向け勉強会、相談会の開催
・地域防災関係者とペット防災関係者をつなぐワークショップの開催
・地域防災関係者向けアンケート調査
・飼い主向け意識調査
・地域の防災団体と連携した、飼い主向けペット防災啓発活動
・防災士の資格取得

【活動③】

・本休眠預金事業Aコース採択者や地域防災関係機関への登録者の接続
・防災・減災およびペット防災研修
・発災を想定した動物避難所開設訓練、及び、関係機関による県域を越えた支援訓練

本事業で解決する課題①】

ペットを連れた飼い主の避難の選択肢として動物避難所が存在せず、適切な避難行動について飼い主に周知されていないことで、避難をあきらめてしまう状態になっている

【本事業で解決する課題②】

地域防災の担い手の中に、ペットに関して知識を持っている人が少ないために、地域でのペット防災の取り組みが進まない。

【本事業で解決する課題③】

ペット飼育という専門性を持った防災関係者等が協働するネットワークが存在せず、災害発生時に円滑な支援を行うことができる状態にない。

【根本的問題】

ペットを連れた避難者が、指定避難所への入室を断られる事態が発生しており、その結果「ペットがいるから」と避難をためらい、人もペットも命の危険に曝される事案も報告されている。ペットの避難に関するルール作りが求められているが、避難所運営は、地域の防災組織が担っており、同組織にペットの専門家がいなければ具体的なルール作りは進みにくい。一方でペット防災の担い手となるペット関連事業者と地域の防災組織の連携関係が築かれていないことが、地域防災の中でのペット対応が進みにくい理由となっている。
また、ペット同行避難に関する情報は、基本的に行政からの発信に偏っており、ペット同行避難＝指定避難所への避難というイメージが先行している。避難行動全般に言えることだが、指定避難所への避難よりも、親類や知人の家、ホテルなどへの分散避難を優先すべきである。飼い主の場合、非飼い主よりも分散避難を選択すべきだが、現状その意識を育めていない。
これらの課題は、ペット防災の担い手が各地域で可視化されていないこと、ペット防災の担い手と地域防災の担い手が連携できていないことが根本的課題であると考えられる。

自治体軸を新設し、制度化・連携の流れを明確化

活動実績写真 1/5（2024年1月～7月）

2024.01.18

講演 **鳥取県社協 災害ボランティアセンター運営者研修**

受益者：社協職員・防災関連団体・民生委員等
参加者：約70名

2024.01.27

講師 **島根ペット防災講習会（益田市）**

受益者：飼い主・地元住民等
参加者：40名程

2024.04.28

WS **「保護猫保護犬応援フェス」あいさわ一郎後援会事務所**

受益者：飼い主・動物愛護関係者等
参加者（来場者）：200名程

2024.06.29

講師 **「ペット同行避難セミナー」あいおいニッセイ同和損害保険**

受益者：飼い主・地元住民・地元企業等
参加者：35名程

2024.06.30

講師 **「地域づくり講演会」鳥取県日吉津村社会福祉協議会**

受益者：飼い主・地元住民・社協職員・自主防災組織等
参加者：20名程

2024.07.28

WS **「防災プチマルシェ」道の駅かわはら**

受益者：飼い主・地元住民等
参加者：30名程

活動実績写真 3/5（2024年9月～2025年5月）

ブース展示 「とっとり防災フェスタ」鳥取県

受益者：飼い主・防災関連団体等

参加者（ブース）：50名程

講師 「オーリブフェスタ」
鳥取県西部保健所（愛護センター）

受益者：飼い主・地元住民等

セミナー参加者：20名程

アドバイザー 「わんこと人のひなん訓練」益田市

受益者：飼い主・地元住民等

参加者：15名程

講師 「山口県萩市防災訓練」

受益者：飼い主・市民

参加者：150名程

WS 「大山わんちゃんマルシェ」
大山リゾート沢田ベース

受益者：飼い主・防災関連団体等

参加者（体験）：20名程

WS 「保護猫保護犬応援フェス」
あいさわ一郎後援会事務所

受益者：飼い主・動物愛護関係者

参加者（WS等）：40名程

活動実績写真 3/5（2025年5月～9月）

WS・ブース 「ますだ防災フェスティバル2025」

◎受益者：飼い主・地元住民等
参加者：100名程

企画運営アドバイザー 「新見市自主防災組織役員会」

◎受益者：新見市自主防災組織役員
参加者：40名程

WS 「防災プチマルシェ」道の駅かわはら

◎受益者：飼い主・地元住民等
参加者：25名程

パネル展示 「ペット防災展示」
ちえの森ちづ図書館

◎受益者：飼い主・地元住民
参加者：ー

企画運営アドバイザー 「鳥取県内各自治体職員向け研修」

◎受益者：鳥取県職員・鳥取県市町村職員
参加者：45名程

ブース・WS 「とっとり防災フェスタ」鳥取県

◎受益者：飼い主・防災関連団体等
参加者（ブース来場者）：50名程

活動実績写真 4/5（2025年10月～2026年1月）

登壇 **孤独孤立プラットフォームWS**

受益者：鳥取県孤独・孤立プラットフォーム加入団体
民生委員等

参加者：30名程

パネル展示 **「ほのぼのフェスタ」智頭町**

受益者：飼い主・地元住民・福祉関係者等

参加者（ブース来場者）：20名程

企画運営アドバイザー **「益田市ペット同行・同伴避難訓練」**

受益者：飼い主・地元住民等

参加者：10名程

講師 **「自閉症協会＆DWAT合同避難訓練」**

受益者：自閉症当事者・当事者家族・ボランティア
・DWAT・社協職員等

参加者：40名程

講師 **「とっとり災害支援連絡協議会研修」**

受益者：防災関連団体等

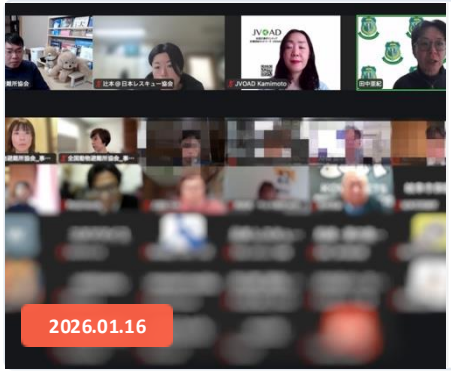
参加者：15名程

企画運営アドバイザー **「島根県内各自治体職員向け研修」**

受益者：島根県職員・島根県市町村職員

参加者：50名程

活動実績写真 5/5（2026年1月～2月）

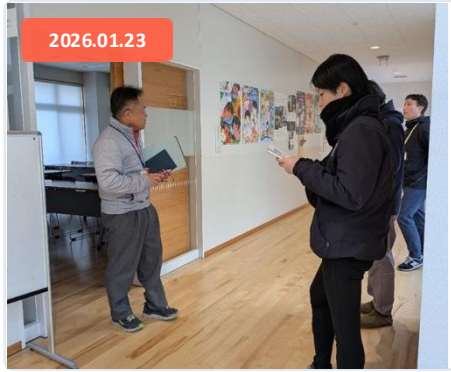


企画・進行 「全国ペット減災協働訓練」
全国動物避難所協会

受益者：ペット事業者・行政・企業・自主防災組織等
参加者：30名程

企画運営AD 「山口市自治体職員向け研修①」

受益者：山口市職員
参加者：30名程(現地・WEB)



視察 「山口市ペット同伴避難所候補地視察」

企画運営AD 「ペット防災セミナー
・想定避難所現地確認」

受益者：飼い主・地元住民等
参加者：10名程

予定 「山口市自治体職員向け研修②」

受益者：山口市職員
参加者：25名程

2026.02.23

開催予定

予定 「琴浦町飼い主向けペット防災講座

受益者：飼い主
参加者：（資料作成時、開始予定）

成功要因と課題の詳細

本事業は、明確な方向性の提示により**民間活力を引き出し、目標を大幅に上回る動物避難所の登録**を実現しました。

成功要因：
民間動物避難所の登録数達成

中国5県で51事業者・団体が登録

目標 36件　実績 51件 (達成率 142%)

- **明確な方向性の提示** 防災に関心はあるが「何をして良いか分からない」事業者に、「動物避難所」「啓発窓口」という具体的かつ段階的な参画方法を提示し、行動のハードルを下げた。
- **企業のCSR意欲との合致** 大手企業やペット関連企業の「社会貢献したいが方法が不明」というニーズに対し、具体的な役割と関わり方を示すことで、その潜在的な力を引き出した。

実際の災害対応への連携 令和6年能登半島地震、大船渡山林火災、佐賀大火などに対し、企業からの「支援したい」という声を調整し、物資提供や一時預かり等の具体的支援に繋げた実績が信頼を醸成した。

課題：
制度化と合意形成の壁

- **自治体の人的リソース不足** 防災部局の人手不足により、ペット防災特有の課題（ルール策定等）まで手が回らない現状がある。
- **住民意見の調整困難** アレルギー、臭気、鳴き声などを懸念する住民への配慮が必要で、避難所受入の合意形成が難航している。
- **制度化の未進展** 指定避難所での受入体制整備や災害協定の締結（目標15件に対し0件）は達成に至らず、継続的な対話と伴走支援が不可欠である。

自己評価スコア（4項目）

① 課題の適切性

評価結果

想定水準

事業が目指す課題解決の方向性は適切であり、地域のニーズに合致していたと評価。

② 事業設計

評価結果

一部改善が必要

活動の再整理やアウトプット区分の見直しなど、事業進行中に設計の修正が必要となった。

③ 実施の適切性

評価結果

想定水準

研修、訓練、啓発活動などの各プロセスは計画通り、または効果的に実施された。

④ 成果の達成度

評価結果

一部改善が必要

民間動物避難所の登録等は目標を超えたが、自治体との災害協定締結などの制度面で未達項目が残った。

今後の課題と提言 (1/2)

本事業を通じて明らかになった課題を踏まえ、ペット防災をさらに発展させるための3つの主要な提言を行います。意識改革から情報基盤の整備まで、多角的なアプローチが必要です。

認識のずれの解消（意識改革）

「動物の問題」からの脱却

ペット防災を動物愛護の問題ではなく、「人の避難行動を支える被災者支援」として再定義する必要があります。

支援の視点の共有

防災部局、福祉部局、支援団体間での共通認識を形成し、多職種連携を促進します。

飼い主の備え不足への対応

避難行動の具体化

「同行避難＝指定避難所」という固定観念を解き、親知人宅や車中泊などの「分散避難」の重要性を啓発します。

平時からの準備促進

ケージトレーニングや備蓄品の確保など、具体的な自助努力を促す情報提供を強化します。

リアルタイム・マッピング構築

受け入れ情報の可視化

災害時に動物避難所の受け入れ可否や空き状況をリアルタイムで把握できる仕組みが必要です。

情報連携基盤の整備

避難のミスマッチを防ぎ、迅速な避難先決定を支援するためのデジタル基盤の構築を提案します。

提言 (2/2) - 制度化・全国展開・連携強化

本事業の成果を持続可能なものとし、社会全体の実効性ある仕組みへと昇華させるため、**制度面の整備、広域的な展開、そして多職種連携による体制強化**を提言します。

④ 制度化への継続支援

- 指定避難所におけるペット受入運用ルールの具体的な整備支援（マニュアル策定等）
- 自治体と民間動物避難所との災害協定締結の促進
- 継続的な対話と伴走支援による、自治体・住民間の合意形成サポート

⑤ 全国展開の推進

- 全国動物避難所協会との連携を軸とした、地域間連携の仕組みの全国展開
- 中国5県モデルで得られた知見・ノウハウの他地域への横展開
- 広域的な相互支援体制（プラットフォーム）の構築と強化

⑥ 人の防災との一体化

- 防災部局、社会福祉協議会、獣医師会等の多職種連携の常態化
- 「動物の問題」ではなく「人の避難行動を支える支援」としての位置づけの定着
- 要配慮者支援や福祉防災施策との統合的な取り組みの推進

事業からの学び・知見・教訓

本事業を通じて得られた知見は、単なるマニュアル整備や物資備蓄を超えた、**「人と人との関係性」の重要性**を示唆しています。平時からの信頼構築が、有事の機能的な連携の土台となります。

コミュニティ醸成の重要性

- **平時の関係づくりが鍵**
  顔の見える関係性が、緊急時の円滑な情報共有と初動対応の質を決定づけました。
- **研修・訓練の副次的効果**
  知識習得だけでなく、関係者同士が知り合う機会としての機能が極めて重要でした。

信頼関係構築のプロセス

- **継続的な対話が不可欠**
  行政・事業者・支援団体間の文化や言語の違いを乗り越えるには、時間をかけた対話が必要です。
- **一方的でない関係性**
  要請するだけでなく、互いの課題や制約を理解し合う姿勢が信頼を醸成します。

アンケートの限界と対話継続

- **定量データだけでは不十分**
  アンケート結果だけでは見えない、現場職員の懸念や本音を汲み取る必要があります。
- **対話型の伴走支援が制度化の鍵**
  自治体ごとの事情に寄り添い、具体的な解決策を共に考えるプロセスが制度化を後押しします。

人と動物の共生センター

ご清覧ありがとうございました

本報告書を最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。

本事業で築いた基盤を活かし、今後も地域防災の担い手として、
皆様と共に歩んでまいります。
ご意見・ご協力のお願いがございましたら、お気軽にお声がけください。

特定非営利活動法人人と動物の共生センター

https://human-animal.jp/